

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社

代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。青葉が目眩しいこの頃、皆様お元気にお過ごしと存じます。

先日訃報に驚きました。平成の三四郎と異名を取った柔道家で'92年バルセロナ五輪男子71kg級金メダリスト古賀稔（享年53歳）病気との闘いも凄まじかったと思います。若くして病に倒れる悔しさ、無念な思いに心が痛みました。五月晴れの日々をどうかお健やかに過ごしてください。

サンライズの物語

年を重ねるとのこと—— 人生について考える物語



弊社介護職として携わった方々は数知れませんが、年を重ね、今まで自身で出来たことができなくなっていく・・・

年を重ねる事は一つずつ何かを無くすことだと思います。自分でできないもどかしさ・・・人に頼まなければならない悔しさ・・・頼んだことを待つ歯がゆさ・・・

誰しもが年を重ねた時に思うことです。自分が年を取ることなど若いときには想像だにしていなかったのが現実です。

そして最愛の人達との別れ・・・毎日最愛の人の顔を思い出しては涙が零れる日々・・・あの時に何故最愛の人にもっと愛情を持った言葉を伝えなかったのか・・・もう一度最愛の人を抱きしめたいと心から願うばかりだと思います。

ナイチンゲールが世界を平和にしたいなら身近な人を愛みなさいと言った通りに、まずは自分の近い人たちに感謝を伝えなければいけないと思います。明日伝えるのでは遅いのです。今伝えなければ、自分の大切な人は何時までも居る訳ではないと感じます。

介護職として関わらせて頂いた方々の事をいつも思い出す事がお一人お一人が生き続けることだと考えます。

サンライズのデイサービス陽光だより



おやつを持って、
デイサービスの近所の桜を見に行きました。
いつも飲んでいるコーヒーですが、皆さん
と桜を見ながら飲むコーヒーは、不思議と
すごく美味しく感じます。
春を感じた幸せなひと時でした。

デイサービスの送迎中
も色々な場所の桜を見
物しながら「この桜
綺麗だね～」
「一杯飲みたいね～」
などとドライブ気分で
盛り上がっています。



NEWS 今月のニュース

コロナ禍で会いに行けないけれど…100歳のお祝いに思い出の地へのオンライン旅行を孫からプレゼント

福島県いわき市の星ヨシエさんは4年前の転倒で骨折してしまい、今は市内の介護施設で暮らす。

この日、一緒に住んでいた家族が施設をお祝いに訪れたが、東京都台東区在住の孫直人さん（36）はコロナ対策を強化する施設の方針で面会がかなわなかった。

幼い頃、両親が共働きだった直人さんにとって、いわき市で同居していたヨシエさんは最も身近な存在だった。「どうしたらばあちゃんの100歳を祝えるだろう」

旅行会社に勤める直人さんが目を付けたのが、コロナ禍で脚光を浴びるオンライン旅行。旅先に選んだのはヨシエさんの米寿を記念して12年前に一家10人で訪れた浅草だ。

「そんじゃ、出発すっぺー」。午前10時すぎ、福島と東京がオンライン会議システム「Zoom」でつながり、直人さんの掛け声で浅草ツアーが始まった。朱塗りの雷門が青空に映える。車いすのヨシエさんはぐっと画面に近寄った。

直人さんは「ばあちゃん、食べてみたいものある？」と語りかけ、仲見世の人形焼き店で立ち止まった。アシスタント役を務めたひ孫の長男爽太そうた君（7つ）が試食して「おいしいよ」と実況すると、ヨシエさんの表情がゆるんだ。

「浅草寺でお参りしたの覚えてっけ？」「覚えてるよ」。そう言葉を交わしながら直人さんは本堂に向かった。爽太君がさい銭を投げ入れるのに合わせて、「ばあちゃんが元気でいてくれますように」と祈願。ヨシエさんも頭を下げて拝むしぐさを見せ、30分間のツアーは幕を閉じた。

直人さんはコロナ禍で帰省を控える日々が続く、ヨシエさんとは2019年末以来会っていない。「浅草行ってみてえだ」とヨシエさんが喜んでくれたことに気持ちが震えた。

「ずっと外の景色を見たいと言っていたので見せてあげられて良かった」と涙を浮かべながら語った。



<東京新聞Web
2021年4月2日 >

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>